

令和 6 年 能 勢 町 議 会 11 月 会 議 所 信 表 明

町長就任に当たり、初めての議会でありますので、貴重なお時間をいただき、今後の町政に対する私の所信の一端を述べさせていただきます。議員各位並びに住民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

皆様ご承知のとおり、私は去る 10 月 20 日に執行されました能勢町長選挙におきまして、住民の皆様のご支持を賜わり、当選の栄に浴させていただきました。この任期中に町制施行 70 周年の節目を迎える町政のかじ取りを担わせていただくことに、改めて身の引き締まる思いでございます。

この選挙結果を厳粛に受け止め、今日まで能勢町を築き上げてこられた諸先輩方のまちづくりへの思いをしっかりと受け継いでまいります。

9 代目の能勢町長として本町の更なる発展と住民福祉の向上に全力を尽くし、このまちを未来へとつないでいくために、変化を恐れず、本町が取り組むべき諸課題の解消に向けチャレンジしてまいります。

私は能勢町で生まれ育ち、池田市職員として奉職以来、基礎自治体の実務に携わってまいりました。基礎自治体の行政執行を円滑に

進めるためには、議員各位をはじめ住民の皆様方のご指導、ご鞭撻は欠かすことができないものですので、まず、心よりお願い申し上げる次第です。

私は仕事の傍ら、この能勢の地で先代から受け継いできた農地や栗園などについても、大切に守ってきました。

先人のたゆまぬ努力や取組の積み重ねにより、大切に守り、育まれてきた本町の里山資源は、他に誇るべき魅力を有しており、また、その魅力を最大限に活用し、次の世代に引き継ぐことが我々世代に与えられた使命であると実感しています。

私が愛するこの能勢町で大きな役割を与えてくださった皆様に、改めて心より感謝申し上げます、そのご期待に添えますよう、「能勢の未来に本気でチャレンジ」、精一杯努力してまいる所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年12月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した日本の地域別将来推計の市区町村別人口では、2050年の人口が2020年の半数未満となる市区町村は約20%に達し、本町においては更に進んで3,000人台となることが示されました。

また、高齢化率においても、50%を超える

自治体は、2050年には全国の市区町村で3割を超えるという予測が示されています。

本町におきましては、既に高齢化率が40%を超えており、30年先の日本全体の将来像が眼前に差し迫っている状況です。さらに、社会保障費の増大により、社会保障制度を支える現役世代の負担の増加が予測されることや、地域コミュニティの活力低下についても危惧される状況にあり、本町においても時代の変化に応じて、様々な施策や取組等について、適切に見直し、変革や発展を生み出し、対応していくことが、最も重要であると考えます。

こうした状況を的確に捉え、次の目指すべき3つのまちづくりの方向性と7つの進めてまいりたい取組の具体的内容に関して、所信を申し上げたいと存じます。

1. 「住み続けられる町、移り住みたい町」

① 人材育成と支援

義務教育学校 能勢ささゆり学園では、地域課題を自分事として捉え、持続可能な社会の創り手となる人材育成に取り組んでいます。この取組を継続することで、シビックプライドを醸成し、ふるさとを大切に思い、郷土愛にあふれた人材育成を進めてまいりま

す。

これからは「VUCAの時代」と言われるように、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状況となっています。変化の激しい、これからの社会を生きる子どもたちのために、「生きる力」、「確かな学力」を育むことが必要であると考えています。

また、物価高の経済状況下におきまして、生活に係る費用も更に増大してきている中、高等学校や大学などの通学に係る交通費は、各ご家庭において大きなご負担になっているものと懸念されます。このようなご負担を軽減することが能勢で住み続けるご家庭の支援につながると考えることから、適切な支援策の構築に取り組んでまいります。

② 子育て環境の整備

現在、旧役場庁舎の解体工事を進めています。旧役場庁舎敷地を活用して、多様な世代が集まり、交流のできる場所「憩いの広場」の整備に向け、取組を進めてまいります。

また、新生涯学習施設については、生涯をつうじて楽しく学び・憩い・交流することができる地域コミュニティの拠点として、子どもや次世代を担う若者を含め、幅広く住民の意見を取り入れながら、これからの時代にふ

さわしい施設の在り方を検討してまいります。

町内外を問わず利用者の皆様の様々な活動を実現し、多様な世代が交流できる、本町の中心的な施設として整備を進めてまいります。

③ 交通環境の充実

本町におきましては、令和6年4月から乗合タクシーの本格運行、妙見口能勢線の代替交通として、妙見口のせ号による定時便運行により交通弱者の支援に努めているところです。しかしながら、乗合タクシーにおいては、目標値の3割程度の利用状況であることから、公共交通の持続性を高めるため、路線バスとの乗り継ぎや利用予約方法の改善などを進めてまいります。

また、それぞれの交通モードの組み合わせにより、運転免許を返納されても、自由な移動が行えるよう、実質的な交通空白地の解消に向けて、引き続き交通事業者等と連携し、改善を進めてまいります。

④ 空き家対策

住宅の所有者・管理者の高齢化が進み、次の世代へ継承がなされず、管理が行き届かな

い空き家が増加することが危惧されます。

そのような状況の中で、空き家対策を進めるため、まず現状の空き家の実態把握に努め、空き家の活用や除却等についてのご相談に取り組んでまいります。

また、空き家の利活用が進むよう関連法の規制への対応策の検討も進めてまいります。

２．「続けられる農業、始められる農業」

① 獣害対策と担い手支援

農業に取り組む人材の確保は、本町が抱える大きな課題の一つです。

特に、野生鳥獣による農作物への被害は、営農意欲を減退させるとともに、離農にもつながり、耕作放棄地の増加の要因として危惧するところです。獣害対策の効果を高めていくことが、持続的に農業を営んでいく人材の確保に寄与するものと考えます。鳥獣被害対策の３本柱、個体群管理・侵入防止対策・生息環境管理の強化に努めてまいります。

また、地域が安心して農地を託すことができる農業組織等の法人設立に取り組み、地域の農業従事者をはじめ、新規就農者やUターン就農者等、あらゆる従事者により農地を活用することで農空間の保全を図ってまいります。

3. 「まちを魅力化する」

① 食を通じた魅力化

現在、子どものアレルギー増加や食生活の乱れ等、子どもの食に関する課題は多様化しています。

これまでの学校給食を一步進め、自然豊かな能勢町の地産地消をさらに推進し、環境に配慮したエコ農産物などの食材を取り入れ、スモールスタートから有機給食導入の実現をめざしてまいります。

子どもが毎日口にする学校給食をつうじて、能勢ささゆり学園のさらなる魅力向上を図ります。

② まちの資源を活かした魅力化

都市に近接する地勢の優位性を最大限に活かし、自然・里山があふれ、のどかな景観が広がる環境は、交流人口の増加や企業のCSR活動等につながるチャンスがあると感じています。

まちの魅力や資源は、町外にお住いの皆様と交流することで、新たな価値や創造等のきっかけとなり、更に発展すると考えます。

道の駅や事業者の皆様と連携し、新たな発想や工夫で特産品の開発や掘り起こしに取

り組んでまいります。

さらに、町内各地の観光資源を有効に活用できる仕組みや、つながる・関わる・住まう機会を創出していくため、わかりやすい情報発信に努めてまいります。

以上、3つのまちづくりの方向性と7つの進めてまいりたい取組について、私の所信の一端を申し上げてまいりました。

住民の皆様のご支持により、能勢町長に就任させていただきました限りは、変化が激しく、厳しい時代ではありますが、住民の皆様の笑顔があふれる町を実現させねばなりません。

役場へ来庁された際には、安心して気軽に相談できる窓口へおつながりいたします。そして、働く全ての職員のやる気や思いがあふれる役場づくりを目指し、住民の皆様、本町に関係する皆様と共に、誇れる能勢町を築いていきたいと考えるものでございます。

私のあらん限りの力を尽くす覚悟ではございますが、議員各位並びに住民の皆様におかれましては、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、私の町長就任に当たっての、所信表明とさせていただきます。